



穏やかに流れる、水路の豊かな湧水。

武家屋敷関連年表

■日本での出来事 ●武家屋敷での出来事

- 慶長8(1603)年、徳川幕府始まる。
- 島原半島、原城主12代有馬晴信。
慶長17(1612)年、甲斐にて処刑。
- 晴信の子、直純。家康の曾孫国姫と結ばれ、13代を継ぐ。
慶長19年、直純5万3千石となり、宮崎県延岡に移さる。
島原領は、大村・松浦・鍋島三藩による委任統治。
- 元和元(1615)年、大坂落城。(一国一城令)
- 元和2(1616)年、松倉重政、奈良五条城(2万石)より
島原領(4万石)に移され、日之江城に入る。
重政、島原村森岳に築城着手。
- 元和4(1618)年、島原城築城始まる。(着手)
4年ないし7年にして成る。
- 徒士屋敷、下の丁、中の丁、古丁できる。
- 寛永14(1637)年、島原の乱起こる。
(松倉勝家改易・処刑)
- 寛文9(1669)年、京都、福知山城より
松平忠房島原城に移さる。(7万石)
- 徒士屋敷、上新丁、下新丁、新建できる。
- 延宝3(1675)年、時鐘楼建つ。



しまばら温泉

島原温泉は、無色透明で中性ということもあり、肌に優しく抵抗なく入浴でき、特に切傷、火傷、慢性皮膚病に効果があります。また、浴用だけでなく飲用でも慢性消化器病、糖尿病、痛風、肝臓病に効果があり、市内の7箇所へ飲泉所を設置していますので気軽に温泉を楽しむことができます。足湯も2箇所が設置されており、神経痛、冷え性、関節痛などに効果があると好評を得ています。料金は無料で、24時間利用できます。



島原市産業部
しまばら観光おもてなし課
TEL.0957-63-1111

観光ガイド大手門番
TEL.0957-63-3899

しまばら観光案内所 TEL.096-329-7097
(熊本港ターミナル内)

島原温泉観光協会
TEL.0957-62-3986

しまばらに
なおも弛まずふつつと
心安らぐ湧水あり

湧水と歴史の街 島原武家屋敷

清流を湛えて、
島原を讃える。

ここは、島原武士の屋敷跡。
鉄砲を主力とした徒士部隊の
住居だったことから鉄砲町と
呼ばれ、町筋には趣深い
石垣が穏やかに続いている。
島原の湧水を利用した、
道の中央を流れる水路。
その、清らかな美しい流れは
昔も今も変わらない。



Shimabara "Bukeyashiki" Old SAMURAI Houses



人々の暮らしとともに、悠久の時を越えて

武家屋敷(鉄砲町)の由来

島原城の築城のとき、外郭の西に接して扶持取70石以下の武士たちの住宅団地が建設されました。戦いのときには鉄砲を主力とする徒士(歩兵)部隊の住居であったので、鉄砲町とも呼ばれています。街路の中央の水路は豊かな湧水を引いたもので、生活用水として大切に守られてきました。

島原城が竣工した1624(寛永元)年ごろ、藩主松倉氏は知行四万石で、鉄砲町も下の丁・中の丁・古丁の三筋だけでしたが、1669(寛文9)年松平忠房が知行七万石で入封してから、新たに上新丁・下新丁・新建の三筋が作られ、さらに幕末に江戸詰めの藩士が帰国することになって、最後に江戸丁が作られました。徒士たちの平常の勤務は、各役所の物書(書記)、各村々の代官、檢察や警察、城門の警備などでしたが、1868(明治元)年の「戊辰戦争」には260人ほどの徒士たちが官軍に属して奥州へ出陣、4人が戦死するという戦歴も残っています。

南北に通じる各丁の道路の中央には水路を設け、清水を流して生活用水としていましたが、この当時、水源は主に2キロほど北にある杉山権現熊野神社の豊かな湧き水を引いたものでした。藩主松平氏は三河国の深溝(愛知県幸田町)の出身で、家臣団も多くが三河者であったため、独特な「家中言葉」が使われていました。



住居は25坪ほどの藁葺き、屋敷内には藩命で梅・柿・蜜柑類・枇杷などの果樹を植えさせ、四季の果物は自給できるようになっていました。

武家屋敷・島原城

島原歴史散策マップ

- 湧水
- 湧水が飲めます
- 温泉が飲めます
- 足湯
- ポケットパーク
- 洗い場
- 水神
- 観光案内所
- トイレ
- 駐車場
- 門跡



1 島原城
島原城は元和4(1618)年から、松倉豊後守重政が7年の歳月を費やして築いたものです。キリシタン史料などを展示しています。



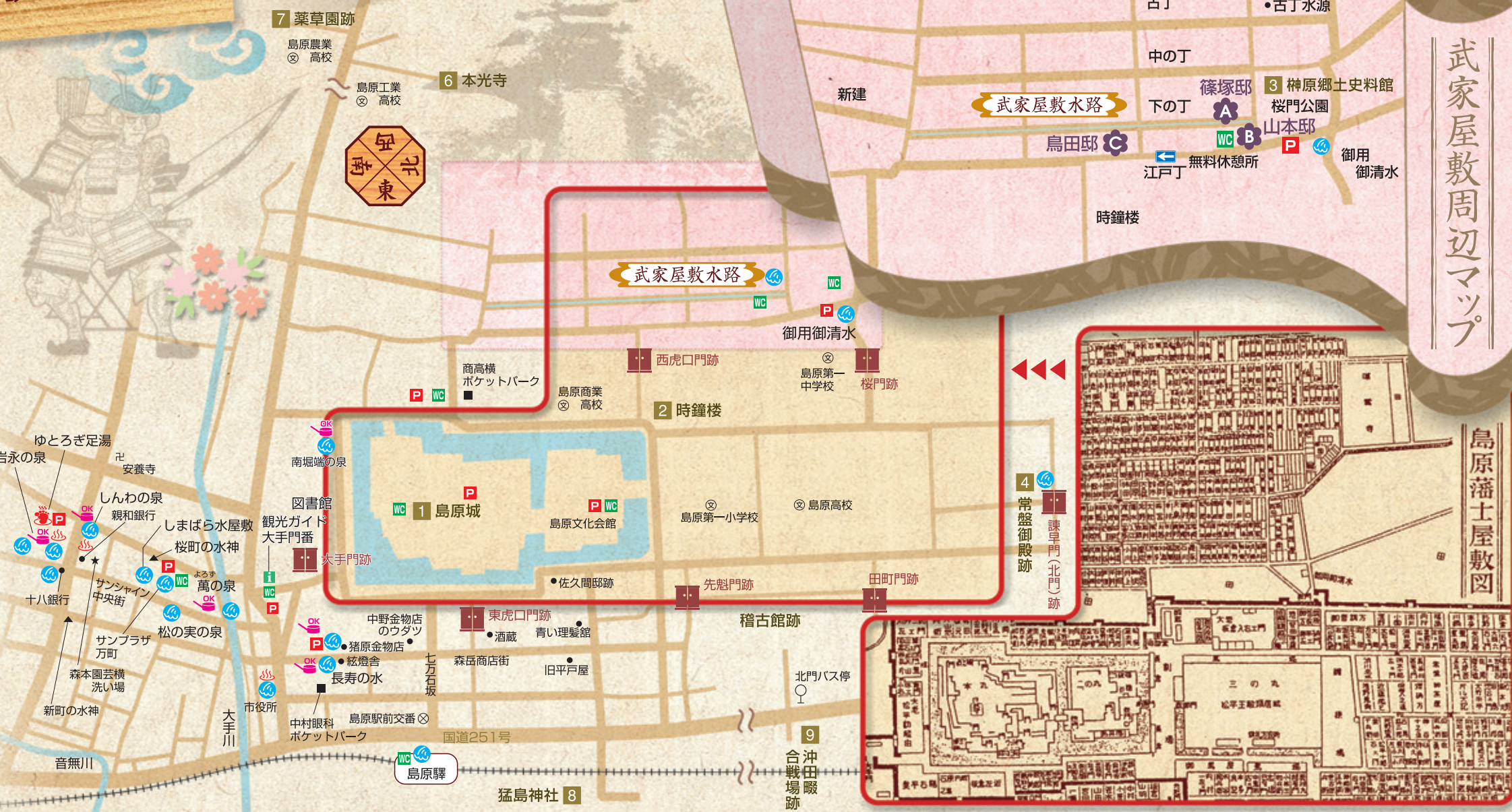
2 時鐘楼
もとは、延宝3(1675)年、初代藩主松平忠房が「人々に時刻を知らせ、守らせることは大切である」として建立したものです。



3 神原郷土史料館
平成元年、民間の史料館として開館。長年収集された各種史料や民具を公開しています。



4 常盤御殿跡
島原藩主の別荘が置かれ、数百年にわたり使われていました。今も見事な泉水庭が残り、藩主が水を愛でたであろう庭石や湧き出る清水は昔のままです。



5 神習処跡
明治維新の勤王の志士・丸山作楽は文久3(1863)年、私塾・神習処を開き、武士だけでなく町民や農民に、国学を教えました。



6 本光寺
松平忠房が藩主となった時、松平家の菩提寺・深溝本光寺の末寺としました。山門はその当時のもので、島原では最古の建物です。



7 薬草園跡
奈良の森野旧薬園、鹿児島島の佐田旧薬園と共に日本三大薬園といわれ、学問的にも価値が高い文化財として、国指定の史跡となっています。



8 猛島神社
松倉重政公が島原城築城の時に祭った氏神と由緒ある神社。松平忠房公の入国後は、現在地に移され、七万石の総社「鷹島大明神」と改められました。



9 沖田噺合戦場跡
天正12(1585)年3月24日、竜造寺軍2万5千と有馬晴信・島津義久軍8千が激突。大将の竜造寺隆信が戦死し、その日のうちに終わった。

武家屋敷周辺マップ

現存する3軒の武家屋敷について

A 篠塚邸

この屋敷に住んでいた人は姓を篠塚と言ひ、代々順右衛門を称し祖先は三河(愛知県)深溝であるが、寛文9(1669)年、松平主殿頭忠房が丹波福知山5万石から7万石島原城主として移されたときに従ってきて、明治初期まで11代、8石から13石2人扶持を給され、主として郡方祐筆(書記)や代官などを勤めた。屋敷坪数はこのあたりすべて3畝(90坪)である。



B 山本邸 (明治元年 建設)

山本家の初代左五左衛門は、忠房公の先代三河(愛知県)の吉田城主忠利公時代から家臣となり、寛延2年(1749)、5代忠祇公の宇都宮移封、安永3年(1774)、6代忠恕公の島原への所管の所替に際して随行し、その後幕末まで前後13代の城主に仕えました。山本家は城主からの信任が厚く明治以後は悟郎氏秀武氏と合わせ10代続いております。5代茂親氏は寛政2年(1790)に一刀流の免許、文化元年(1804)には荻野流鉄砲術師範、文化8年(1811)大銃術の免許皆伝を得て、代々重職を務めました。17石2人扶持で、門構えは最後の城主忠和公から特別に許されたものであります。



C 鳥田邸

鳥田家は藩主松平氏の草創以来の古い家柄で、藩主の転封にともなって三河国吉田、丹波国福知山と転じ、寛文9(1669)年、ここ島原に入った。歴代地方代官・郡方物書などを勤めたが、幕末には御目見獨禮格で7石2人扶持を受け、材木奉行・宗門方加役・船津往来番などの重職についた。このあたり一帯は中・下級武士の屋敷で、一戸当たりの敷地は3畝(90坪)ずつに区切られ、家ごとに枇杷、柿、柑橘類などの果樹を植えていた。道路の中央を流れる清流は、往時の生活用水路である。

